飛鳥宮跡活用検討委員会(第５回)議事の概要

日　時：平成29年10月6日(金)　13時30分～16時00分

場　所：奈良県文化会館

出　席：委員長　田辺　征夫

委　員　小林　　牧、櫻井　敏雄、染川　香澄、田島　　公

寺西　和子、増井　正哉、松村　洋子、森川　裕一

（欠席：黒田委員、菅谷委員、仲委員、古瀬委員）

事務局　奈良県公園緑地課

関係課　奈 良 県　南部東部振興課、文化資源活用課、平城宮跡事業推進室

文化財保存課

明日香村　総合政策課、明日香村文化財課

【構想案全体の構成・記述について】

○史実に関する記述で、明らかに間違っているところがある。県がつくる構想として恥ずかしくないようにしっかり確認すること。また、いくつかの説があるような場合は、教科書の記述等を参考にすること。

○遺構保存の方針や景観保全の方針についての記述がないが、ポイントを整理した上で記述しておくべき。

○個別の方針と展開のイメージがそれぞれ書かれているが、相互の関連がわからない。また、遺構保存や景観保全と公開・活用は不可分のはずだが、関連する記述がない。基本方針があって、それぞれが関連しているところが見えてくるような構成にするべきではないか。

○トータルに飛鳥をどのように活用していくかというイメージがまずあって、それに基づいて個々の取組がどのような役割、効果を果たすのかという整理をすべきだと思う。

○この委員会は、「活用から考える」ことをテーマとしているが、やはり活用は保存と一体であり、活用の前提として調査研究等が必要だというような基本的な記述は、冒頭にきちんと挙げておくべき。

○ハード的な整備とソフト事業の展開、あるいは、来訪者と地元の方など、いろいろな関係性をどう考えていくかが重要。また、どれくらいの人が訪れると想定して様々な取り組みを進めるかなどの検討も必要。

○遺構の表示や活用の展開の中で例示されている取組で、重複しているものがあるので、整理すべきではないか。また、例えば情報発信を行う場合、様々な主体、手法があると思うので、全体としてどのように整合を図り、特に歴史に詳しくない人達に分かりやすく発信していくかを決定していくことが必要ではないか。

【文化財保護法の改正と文化財の活用について】

○文化財に関する調査と保存をしっかりとした上に、活用が乗っかっているということをはっきりと記述しておかなければならない。

○これまでは、文化財の保存に重点を置きすぎていたということで、国の方針が変わって、活用の方向に打ち出されているが、少し振り子が振れ過ぎているように感じる。

○事業の主体ということに関連して、文化財保護法が改正されて、市町村に権限を移すようなことが取り沙汰されているが、遺跡は行政の区域とは関係なく存在するので、もっと広域的に、県や関係する広域の市町村がお互いに協力できるような体制なども視野に入れて検討する必要がある。

○飛鳥時代の遺跡は、明日香村という行政単位などない時代のものなので、橿原市や高取町などとともに、より広域に取り組んでいければよい。

○文化財の具体的な活用に関しては地方の方が進んでいる。放置して雑草が生えるよりは、しっかりと活用してその価値を知ってもらう方がよりよい保存になる。観光立国という目標もあるかもしれないが、地域に密着した活用という視点を打ち出せればよいのではないか。

○文化財を題材とした教育はとても大切だと思う。文化財の活用は、単に経済活動に資するというだけではなく、学ぶ価値があるということを伝えたい。

○観光立国という目標に基づいて、文化庁だけでなく、宮内庁までも活用のための検討を進めている。

○世界遺産への登録は、進めていきたい方向ではあるが、飛鳥宮跡の整備・活用がどう影響するのか判然としないところがある。飛鳥宮跡の活用が世界遺産登録を阻害しないような配慮が必要。

○すぐ隣に飛鳥京跡苑池があり、いずれは両方一緒に復元活用ということにしていかなければならない。

○飛鳥を舞台にしたマンガなども多くあると思うので、そういうものもうまく活用して、若い世代に知ってもらうことも必要。

【遺構の表示・ガイダンス施設について】

○飛鳥宮跡のガイダンス機能を果たすサイトミュージアムが必要だと思うが、飛鳥の場合、遺跡と博物館がきちんとセットになって機能していないように感じるので、そうした機能を果たす新しい施設を作る、あるいは既存の博物館と関連づけるなどの項目を立ててはどうか。

○周辺の史跡や施設の分布と飛鳥宮跡との関わりや連携等も記述してほしい。

○出土品などの考古学的な成果と遺跡の観光とを結び付けるように工夫できないか。

○飛鳥には遺跡が数多くあるので、ガイダンス施設をどのように設置するかは今後の検討課題。

○明日香村役場の庁舎の移転が決まったので、飛鳥宮跡のガイダンス施設をどうするかについて可能性が広がったと思う。

○飛鳥宮の範囲はどこまでなのか、塀や石敷きなどでわかりやすくなればよい。また、発掘調査の様子や地下の遺構がわかる写真があれば、訪れた人に理解してもらいやすいと思う。また、日陰も必要。

○普通に観光で訪れる来訪者にとっては、現在の飛鳥宮跡のように何もないところに立って、自分だけで歴史に思いを馳せ、ストーリーをイメージすることは難しいと思われる。その場所でどう時間を過ごすか困るというのが本音ではないか。やはり、そこがどういう場所で、どんな価値があるのかを知ることができ、旅の思い出になるような楽しいこともあり、カフェなどもあって、快適に時間を過ごせる場所にすることが必要ではないか。復元した建物だけがあっても、それを理解できるリテラシーがないと楽しくないだろう。建物を復元するとしても、周囲の景観との調和も含め、全体として居心地のよい空間としての環境を整えていくことが活用につながるのではないか。

○現代人が古代の空間を楽しむことが活用につながる、というような大きな捉え方をして、個々の取組を総括するようなコンセプトを建てたほうが良いのではないか。

○明日香村を訪れた外国人の感想として、「何となくパワーを感じた」とか「ホッとした」と言われるが、それだけで終わってしまうことが多く、歴史を感じてもらえていない。歴史を感じてもらう場所として飛鳥浄御原宮などの価値をどう主張するのか考え直す必要があると思う。

【取組の主体について】

○今後、誰が実際に事業の主体、担い手になるかといったマネジメントついても決めていくことになるのだろうが、市町村や地域の方との役割分担等も明らかにしておいたほうがよいのではないか。

○地域の連携協力について、国、県、村、地域住民は無論だが、社寺や民間事業者等にも参画してもらえるようにしておきたい。

○飛鳥宮の再生プロジェクト案が記載されているが、来訪者が、お金を払ってでも参加したいと思って何かを造っていくというのは面白いと思う。

○様々な取組を検討していく上で、誰が主体となって、どんなアウトプットを出していくのかは、重要な点なので必ず記述してほしい。

【村政との連携について】

○明日香村への観光客数は年間約80万人。宿泊者数は、現在の約3万人からできれば10万人くらいまで増やしていきたい。全体量を増やすよりは、長期滞在につながるような取組を進めていければよいのではないかと思う。その際、夏や冬にも滞在して観光してもらえる仕組みをもっと増やさなければならない。

○明日香村民が携わる観光産業としては農産物の販売等があるが、事業として儲かっている状態にはなっていないのが実情。儲かるものをきちんとつくる必要がある。

○明日香村に住んでいることに価値があると考える住民が増えてほしい。そのためにも教育は重要。村の価値を高く思う人たちが住んでいるからこそ、誇りをもって外からの人を受け入れることができる。

【追加・修正等】

○本日の意見を踏まえ、構想案全体の構成をもう一度見直し、全体を総括する基本方針とそれに基づく個々の取組の関係などがわかりやすくなるよう工夫する。

○遺構保存、景観保全の方針についてしっかりと記述するとともに、史実の確認、重複した記述の整理等、所要の修正を行う。

○次回の委員会では、事業の主体や実施の期間等についてもご議論いただけるよう資料を整え、今年度中に構想案を仕上げていく。

【次回委員会は、来年1月12日(金)午後に開催予定】